

信仰を持って行動するなら、エホバから見て正しい人になる

「アブラハムが.....持っていた信仰の足跡をしっかりとたどる」。[ローマ 4:12](#)

119 番の歌 信仰を持つう

何を学ぶか*私たちはエホバに正しい人と見てもらいたいと思っています。この記事では、パウロとヤコブの言葉を調べます。どうすればエホバから正しい人と見てもらえるか、エホバに喜んでもらうために信仰と行動の両方が必要なのはどうしてかを考えます。

1. アブラハムの信仰について考えるとき、どんなふうに思うかもしれませんか。

多くの人は、アブラハムの名前を聞いたことはあっても、どんな人だったかはあまり知りません。でも、皆さんはよく知っていることでしょう。例えば、アブラハムが「信仰を持つ人全ての父祖」と呼ばれていることなどです。（[ロマ 4:11](#)そしてアブラハムは、割礼というしを付けられました。割礼を受けていない時に信仰によって正しいと見なされたことの証印(*保証/確証)としてです。それは、割礼を受けていなくても信仰を持つ人全ての父祖となり、その人たちが正しいと見なされるためでした）でも、「アブラハムの信仰の手本にしっかり倣うことなんてできるのだろうか」と思うかもしれません。安心してください。私たちも強い信仰を持つことができます。

2. アブラハムの手本について学ぶとよいのはどうしてですか。（[ヤコブ 2:22, 23](#)）

2 アブラハムの手本について学ぶことは、アブラハムのような信仰を育てるのに役立ちます。アブラハムは神に言われた通りに行動しました。遠く離れた土地に出掛け、何十年も天幕生活を続け、愛する息子イサクを犠牲として捧げようとしました。こうした行動は、アブラハムが強い信仰を持っていることの表れでした。アブラハムは信仰と行動によってエホバに喜ばれ、友と呼ばれるようになりました。（[ヤコブ 2:22, 23](#)アブラハムの信仰は行動が伴う生きたものだった、ということが分かります。その信仰は行動によって完全にされました。23 「アブラハムはエホバ(*)に信仰を持ち、そのことは正しいと見なされた」という聖句の通りになり、アブラハムはエホバ(*)の友と呼ばれるようになったのですを読む。）エホバはあなたとも友情を築きたいと願っています。それで、パウロとヤコブに、アブラハムの手本について聖書に書かせました。[ローマ 4章とヤコブ 2章](#)からアブラハムについて学べる大切な点を考えましょう。

3. パウロもヤコブもどの聖句から引用しましたか。

3 パウロとヤコブはどちらも創世記 15章 6節→の言葉を引用しています。そこにはこうあります。「[アブラハム]はエホバに信仰を持った。神はそのことを正しいと見なした」。これはつまり、エホバはアブラハムのことを良いと認め、罪がないとさえ見なしたということです。不完全で罪深い人間が神から罪がないと見てもらえるというのは、本当にすごいことです。きっとあなた

もそのように見てもらいたいと思うことでしょう。では、どうしたらそうなれるかについて知るために、アブラハムがどうして正しい人と呼ばれたのか調べてみましょう。

正しい人と見てもらうには信仰が欠かせない

4. 正しい人になるのが難しく思えるのはどうしてですか。

4 「ローマのクリスチャンへの手紙」の中でパウロは、全ての人は罪人だと言いました。 ([ロマ 3:23](#)) 全ての人は罪人(*)になったので、神の栄光に達することができません(*神の栄光を完全には反映できません) ではどうすれば、エホバから正しくて非難されるところがない人と見てもらい、喜んでいただけます。パウロはこの点について仲間のクリスチャンが理解できるように、アブラハムの例を使って説明しました。

5. エホバがアブラハムを正しいと認めたのはどうしてですか。 ([ローマ 4:2-4](#))

5 アブラハムはカナン地方に住んでいた時、エホバから正しい人と見なされました。それはアブラハムがモーセの律法を完璧に守っていたからでしょうか。いいえ、そうではありません。 ([ロマ 4:13](#)) アブラハムとその子孫が、世界を授けられることになると約束されたのは、律法に従ったからではなく、信仰によって正しいと見なされたからでした) アブラハムが正しいと認められたのは、モーセの律法がイスラエル国民に与えられた400年以上前のことでした。では、どうしてエホバから正しい人と見なされたのでしょうか。アブラハムは信仰を示したので、エホバの惜しみない親切によって正しいと認められました。 ([ローマ 4:2-4](#) 例えば、もし行いのゆえに正しいと認められたのなら、アブラハムには誇る理由があったことでしょう。といっても、神の前では誇れませんが。3聖句には何と述べられているでしょうか。「アブラハムはエホバ(*)に信仰を持ち、そのことは正しいと見なされた」とあります。4さて、働く人に与えられる給料は、その人への惜しみない親切ではなく、その人の行いに対する当然の報酬(*ではなく、債務の履行)といえますを読む。)

6. 罪人がエホバから正しいと見てもらえるのはどうしてですか。

6 パウロはさらにこう言っています。「神に信仰を持つ人は……信仰のゆえに正しいと見なされます。行いによらずに神から正しいと見なされる人の幸せについて、ダビデも次のように語っています。『不法な行いを許され、罪を覆われた人は幸せだ。罪があるとエホバから見なされない人は幸せだ』」。 ([ロマ 4:5-8](#) 他方、罪人を正しいと認める神に信仰を持つ人は、行いがなくても、信仰のゆえに正しいと見なされます。6行いによらずに神から正しいと見なされる人の幸せについて、ダビデも次のように語っています。7「不法な行いを許され、罪を覆われた(*許された)人は幸せだ。8罪があるとエホバ(*)から見なされない人は幸せだ」。[詩 32:1, 2](#) 違反を許され、罪を覆われる(*許される)人は幸せだ。2エホバから罪があると見なされない人、誰かを欺こうとしない人は幸せだ) エホバは、ご自分に信仰を持つ人たちの罪を完全に許し、それを後で持ち出したりはしません。そうした人たちの信仰に注目して、罪がない正しい人と見なしてくださるのでです。

7. 古代の忠実な人たちが正しいと認められたのはどうしてですか。

7 エホバから正しいと認められたアブラハムやダビデなどの忠実な人たちも、不完全な罪人でした。でも、エホバはそれらの人たちの信仰に注目して、非難されるところがない人と見なしました。周囲の人たちに比べると、それらの人たちの信仰は確かに際立つものでした。 ([エフエ](#))

2:12 その頃、皆さんにはキリストを知らず、イスラエル国民とは無縁で、約束に関わる契約とは無関係でした。希望もなく、神を知らずに世の中で生活していました) パウロは「ローマのクリスチヤンへの手紙」の中で、神の友になるためには信仰が欠かせないということを説明しました。私たちも信仰があるなら、アブラハムやダビデと同じようにエホバと友になることができます。

信仰と行動にはどんな関係があるか

8-9. パウロとヤコブの言葉をどのように考える人がいますか。どうしてですか。

8 何世紀にもわたり、キリスト教の指導者たちの間で、信仰と行動の関係性が激しく議論されてきました。①聖職者の中には、主イエス・キリストを信じるだけで救われると教える人もいます。あなたも、「信じる者は救われる」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。聖職者は、「行いによらずに神から正しいと見なされる」というパウロの言葉を引用することさえあります。(ロマ 4:6 行いによらずに神から正しいと見なされる人の幸せについて、ダビデも次のように語っています)
②一方、聖地巡礼や教会が定める儀式を行うことで救われると教える人もいます。そういう人々は、ヤコブ 2章 24節にある次の言葉を持ち出すかもしれません。「人は行動によって、正しいと認められるのです。信仰だけで認められるのではありません」。

9 ③それで、信仰と行動に関するパウロとヤコブの意見は食い違っていると考える聖書学者もあります。ある聖職者たちは、パウロは行いによらずに信仰によって正しいと見なされると言っているのに対し、ヤコブは神に喜ばれるには行動が欠かせないと教えている、と考えています。ある神学教授はこう言っています。「ヤコブは、パウロが行いによらずに信仰によって[正しいと認められる]と言った理由をよく理解していなかったようだ」。でも、パウロもヤコブも聖書を書いた時、エホバの聖なる力に導かれていたので、内容に矛盾はないはずです。(テモニ 3:16 聖書全体は神の聖なる力(*)の導きによって書かれたもので、教え、戒め、矯正し、正しいことに基づいて指導するのに役立ちます) では、どんなふうに理解したらいいのでしょうか。それぞれの文脈を考えてみましょう。



パウロはローマにいるユダヤ人のクリスチヤンに、大切なのはモーセの律法に従うことではなく信仰であると教えた。(10節を参照。)*写真や挿絵: パウロはユダヤ人のクリスチヤンに、大切なのは「律法に従った行い」ではなく信仰であると教えた。「律法に従った行い」には、服の裾に青ひもを付けること、過ぎ越しを祝うこと、手を洗う儀式などが含まれていた。

10. パウロはどんな「行い」について話していましたか。(ロマ 3:21, 28) (挿絵も参照。)

10 パウロはローマ 3章と4章でどんな「行い」について話していたのでしょうか。主に、シナイ山で与えられたモーセの「律法に従った行い」のことを話していました。(ロマ 3:21 今や、律法によらずに神から正しいと認められる、ということが明らかにされています。律法と預言者の書が示している通り、28 人は律法に従った行いによらず、信仰によって正しいと認められる、と私たちは考えるからですを読む。)

当時、ユダヤ人のクリスチヤンの中には、モーセの律法に従う必要がなくなったことを受け入れにくく感じている人たちがいました。それでパウロは、アブラハムの例に注目させ、神から見て正しい人と見なされるために必要なのは「律法に従った行い」ではなく、信仰であると教えました。このことは私たちにとって励みになります。エホバとイエスに信仰を持つならエホバに喜ばれる人になれる、ということを確信できる(要検討)からです。



ヤコブは、信仰を持っていることを、分け隔てなく親切にするといった「行動」によって表すように教えた。(11-12節参照。)

*写真や挿絵: ヤコブは、信仰を持っていることを、貧しい人を助けるなど親切な行動によって表すように教えた。

11. ヤコブは何について説明していましたか。

11 一方、ヤコブ 2章で説明されているのは、「律法に従った行い」のことではありません。クリスチヤンが毎日の生活の中で取る行動のことです。そこに、神を本当に信じているかどうかが表れます。どんなものがあるか、ヤコブが挙げた2つの例を考えましょう。

12. ヤコブは信仰と行動の関係についてどのように説明していますか。(挿絵も参照。)

12 ヤコブは①つ目に、全ての人に分け隔てなく接すことの大切さを教えています。ヤコブの例えに出てくる人は、裕福な人には親切にしますが、貧しい人のことは見下しています。この人は信仰を持っていると言ふかもしませんが、その行動からすると、神を信じているとはとても思えません。(ヤコ 2:1-5) 私の兄弟たち、皆さんは栄光に輝く主イエス・キリストに信仰を持っているはずなのに、えこひいきをしているのですか。2 例えば、上等な服を着て金の指輪を幾つもはめた人と、汚れた服を着た貧しい人が、皆さんの集まりに来たとします。3 皆さんは、上等な服を着ている人には親切にして、「この良い席にお座りください」と言い、貧しい人には、「立っていてください」とか「私の足元(*足台のそば)に座ってください」と言いますか。4 もしそうなら、差別をしていることになりませんか。ひどい判決を下す裁判官のようになつていませんか。5 私の愛する兄弟たち、よく聞いてください。神は、世間から見て貧しい人たちを選んで、豊かな信仰を抱かせ、王国を授けることにしたのではありませんか。その王国は、神を愛する人たちに約束されています、9 しかし、えこひいきをし続けるなら、罪を犯していることになり、その律法によって違反者と宣告され(*として戒められます)) ②つ目に、兄弟や姉妹が着る物や食べ物に困っていることに気付いても、必要な物を与えない人について語っています。この人も信仰を持っていると言うかもしませんが、その信仰に価値はありません。ヤコブが言っている通り、「信仰[は]、行動が伴っていないなら、死んでいるのです」。(ヤコ 2:14-17) 私の兄弟たち、誰かが自分には信仰があると言っても、行動が伴っていないなら、何の価値があるでしょうか。その信仰はその人を救えません。そうではありませんか。15 兄弟や姉妹が、着る物を持ておらず、その日に食べる物も十分にないとします。16 それなのに、皆さんのうちの誰かが、「安心して過ごしてください。温かくして、たくさん食べてください」と言うだけで、体に必要な物をその人に与えないなら、何の価値があるでしょうか。17 同じように信仰も、行動が伴っていないなら、死んでいるのです)

13. ヤコブは信仰に基づいて行動することの大切さをどのように教えていますか。 (ヤコブ 2:25, 26)

13 ヤコブは、信仰を持って行動したラハブの手本について取り上げました。 (ヤコブ 2:25, 26 姫
婦ラハブも、使者たちを親切に迎えて別の道へ送り出し、行動によって、正しいと認められたのではありませんか。
26 生命力(*息)のない体が死んでいるのと同じように、行動が伴わない信仰も死んでいるのですを読む。) ラハブ
はエホバについて聞き、エホバがイスラエル人を支えていることを理解しました。 (ヨシュ 2:9-
11) こう言った。「私にははっきり分かれます。エホバはこの土地をあなた方に与えます。私たちの間にはあなた方
への恐れが生じていて、この土地の住民は皆あなた方のためにおじけづいています。10 エジプトを出た時エホバが
あなた方の前で紅海の水を干上がらせたことや、あなた方がヨルダン川の向こう側(東側のこと)でアモリ人の2人の
王シホンとオグに行ったこと、2人を殺し(*滅ぼし尽くし)たことを聞いたからです。11 私たちはそれを聞いて心が
くじけ、皆あなた方のために勇気を失っています。あなた方の神エホバは天でも地でも神なのです) それで、信仰
に基づいて行動し、偵察に来た2人のイスラエル人をかくまい、命を助けました。 ラハブはイ
スラエル人ではありませんでしたし、完璧な人でもありませんでしたが、アブラハムと同じように
エホバから正しい人と認められました。 このことから、信仰を持って行動することの大切さを学べます。

14. パウロとヤコブの説明が矛盾していないといえるのはどうしてですか。

14 こうして考えてみると、パウロとヤコブは信仰と行いの関係についてそれぞれ別の角度で説明
していたことが分かります。パウロはユダヤ人のクリスチヤンに、モーセの律法に従うだけでは
エホバに良いと認めてもらえないということを教えました。一方ヤコブは、全てのクリスチヤン
に、人に親切にして信仰を示すことの大切さを強調しました。



信仰に基づいて、エホバに喜ばれることを行っているだろうか。 (15節を参照。)

15. エホバに信仰を持っていることをどんな方法で示せますか。 (写真も参照。)

15 エホバから正しい人と認めてもらうために、アブラハムと全く同じことをしなければいけない
わけではありません。エホバに信仰を持っていることを表す方法はいろいろあります。 引っ越し
てきた兄弟姉妹や集会に出席するようになった人を温かく歓迎したり、困っている仲間を助けた
りできます。家族に親切にすることもエホバに喜ばれます。 (ロマ 15:7) それで、神がたたえられるよ
うにするため、キリストが皆さんを迎えて(*受け入れて)くださったように、互いを迎え入れてください。 テモ
ニ 5:4 しかし、やもめに子供や孫がいるなら、彼らに次のことを学ばせてください。まず自分の家族を世話すること
によって神への専心を示し、親や祖父母から受けた恩に報いるべきである、ということです。これは神に喜ばれるこ
とです、8 もしもある人が、自分の家族、特に一緒に住んでいる人たちに必要な物を与えないなら、クリスチヤンの

信条を否定していることになり、信仰のない人より悪いといえます。ヨハ一3:18 子供たち、口先だけの愛になつてしまわないよう、行いによって誠実に愛を表しましょう）さらに、良い知らせを熱心に伝えることはとても大切です。（テモ一4:16 自分自身と自分の教えに絶えず注意を払いなさい。これらのことを持ち強く行いなさい。するなら、あなたは自分自身と、あなたの言葉に耳を傾ける人たちを救うことになります）私たちは皆、エホバの約束が必ず実現することや、エホバの方法が一番良いものであることを信じています。その信仰に基づいて行動しましょう。そうするならエホバに正しい人と認めてもらい、エホバの友になることができます。

希望は信仰を強める

16. アブラハムの例から、希望と信仰についてどんなことが分かりますか。

16 ローマ4章では、アブラハムの例から、希望に目を向け続けることの大切さについても学べます。エホバは、アブラハムを通して「多くの国の人々」が祝福を受けると約束しました。これがアブラハムにとってどれほど素晴らしい希望だったか考えてみてください。（創12:3 私は、あなたに祝福があることを願い求める人たちを祝福し、あなたに不幸があることを願い求める人に災いをもたらす。あなたによって地上の家族全てが必ず祝福を受ける(*獲得する)；15:5 神はアブラムを外に連れていき、こう言った。「天を見上げ、星を数えてごらん下さい。もしも数えることができるのなら」。そして言った。「あなたの子孫(d*種)も星のように多くなる」；17:4 私の契約はあなたとのものであり、あなたは必ず、多くの国の人々の父祖となる。ロマ4:17（「私はあなたを多くの国の人々の父祖とする」と書かれている通りです。）アブラハムが信じていた神から見て(*神の前で)そうなりました。神は、死んだ人を生かし、ないものがあるかのように呼ぶ(if*存在しないものを作りさせる)方です）でも、アブラハムが100歳でサラが90歳になっても、2人には子供がいませんでした。人間の観点からすると、子供を持つのは不可能にも思えたので、この約束はアブラハムにとって信じがたいものだったかもしれません。それでも、「アブラハムは希望に基づいて信仰を持ちました。……多くの国の人々の父祖となることを信じたのです」。（ロマ4:18, 19 かないそうにない希望でしたが、それでもアブラハムは希望に基づいて信仰を持ちました。「あなたの子孫(d*種)も星のように多くなる」と言われた通り、多くの国の人々の父祖となることを信じたのです。19 自分の体がすでに死んだも同然である（およそ100歳だった）ことや、サラが子供を産めなくなっていることを考えましたが、信仰は弱くなりませんでした）そして、ついにこの希望は実現します。待望の息子イサクが生まれたのです。（ロマ4:20-22 神の約束があったので、信仰が欠けてふらつくということではなく、かえって信仰によって強くなりました。そして、神をたたえ、21 神が約束を必ず果たされるということを確信していました。22 それで、「そのことは正しいと見なされた」のです）

17. 私たちはエホバから正しい人と認めてもらい、神の友となることができます。どうしてそういえますか。

17 アブラハムのように、私たちもエホバから正しい人と認められ、神の友になることができます。パウロもこう書いています。「『そのことは正しいと見なされた』という言葉が書かれたのは、アブラハムのためだけではなく、私たちのためでもあります。私たちも正しいと見なされます。主イエスを生き返らせた神を信じているからです」。（ロマ4:23, 24 しかし、「そのことは正しいと見なされた」という言葉が書かれたのは、アブラハムのためだけではなく、24私たちのためでもあります。私たちも正しいと見なされます。主イエスを生き返らせた神を信じているからです）私たちはアブラハムのように、エホバに信仰を持ち、良いことを行い、希望を持ち続ける必要があります。パウロはローマ5章で私たちの希望についてさらに説明しています。その点については次の記事で考えます。

どのように答えますか

1. パウロはどんな意味で「人は律法に従った行いによらず、信仰によって正しいと認められる」と書きましたか。

・S10 当時、ユダヤ人のクリスチヤンの中には、モーセの律法に従う必要がなくなったことを受け入れにくく感じている人たちがいたので、パウロはアブラハムの例に注目させ、神から見て正しい人と見なされるために必要なのは「律法に従った行い」ではなく、信仰であると教えた。

2. ヤコブの言葉から、信仰と行動の関係についてどんなことが分かりますか。

・S11 ヤコブが説明したのは「律法に従った行い」のことではなく、クリスチヤンが毎日の生活の中で取る行動のこと。その行動に、神を本当に信じているかどうかが表れる。

・S14 パウロとヤコブは信仰と行いの関係についてそれぞれ別の角度で説明していたことが分かる。パウロはユダヤ人のクリスチヤンに、モーセの律法に従うだけではエホバに良いと認めてもらえないということを教え、一方ヤコブは、全てのクリスチヤンに、人に親切にして信仰を示すことの大切さを強調した。

3. どうすれば信仰を持っていることを行動に表せますか。

・S15 アブラハムと全く同じことをしなければいけないわけではなく、エホバに信仰を持っていることを表す方法はいろいろある。①引っ越してきた兄弟姉妹や集会に出席するようになった人を温かく歓迎したり、②困っている仲間を助けたりできる。③家族に親切にすることもエホバに喜ばれる。さらに、④良い知らせを熱心に伝えることはとても大切。私たちは皆、エホバの約束が必ず実現することや、エホバの方法が一番良いものであることを信じて、その信仰に基づいて行動するなら、エホバに正しい人と認めてもらい、エホバの友になることができる。

28番の歌 エホバの友となる

△ 私たちはエホバに正しい人を見てもらいたいと思っています。この記事では、パウロとヤコブの言葉を調べます。どうすればエホバから正しい人を見てもらえるか、エホバに喜んでもらうために信仰と行動の両方が必要なのはどうしてかを考えます。

△ 写真や挿絵: パウロはユダヤ人のクリスチヤンに、大切なのは「律法に従った行い」ではなく信仰であると教えた。「律法に従った行い」には、服の裾に青ひもを付けること、過ぎ越しを祝うこと、手を洗う儀式などが含まれていた。

△ 写真や挿絵: ヤコブは、信仰を持っていることを、貧しい人を助けるなど親切な行動によって表すように教えた。

△ (ロマ 4:12) また、割礼を受けた子孫の父祖ともなるためでした。割礼を固く守る人たちだけでなく、アブラハムが割礼を受けていない時に持っていた信仰の足跡をしっかりとたどる人たちの父祖となるのです。

△ (ロマ 4:11) そしてアブラハムは、割礼というしを付けられました。割礼を受けていない時に信仰によって正しいと見なされたことの証印*としてです。それは、割礼を受けていなくても信仰を持つ人全ての父祖となり、その人たちが正しいと見なされるためでした。